

氏名	山本 裕子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第6284号
学位授与の日付	令和2年9月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	小児がん家族への経済支援の検討
論文審査委員	教授 小野智美 教授 兵藤好美 准教授 大井伸子

学位論文内容の要旨

【目的】本研究の目的は、小児慢性特定疾患治療研究事業から助成を受けている小児がん家族の経済状況を把握し、経済支援への満足感を示すことである。【方法】助成を受けている小児がん家族197名に、質問紙調査を実施した。調査内容は基本属性、医療費助成制度、経済支援への満足感、経済負担への困難・不安で構成した。経済支援への満足に関連する因子を評価するためにロジスティック回帰分析を用いた。【結果】母親および父親、計107名のうち約70%は入院時の食費や外来通院時の交通費など医療費以外の費用に経済負担を抱えながらも経済支援へ満足していた。さらに、情報伝達時の医療者の姿勢が消極的と比較し、積極的な方が家族の満足度が有意に高かった(OR, 10.3;95%CI, 2.5-42.3)。一方、家族は晩期合併症への不安から、経済支援終了後の経済負担について心配していた。全国平均より子どもの数が多く、収入が少ない岡山県は、経済支援終了後は経済負担が多くなることが予想された。【結論】小児がん家族の経済支援への満足感を高めるためには、情報伝達時の医療者の積極的な姿勢が重要であり、さらに今後の経済支援の視点として地域特性や社会状況を反映させる必要性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本論文は、小児期の悪性腫瘍である小児がんの家族の子どもの治療に伴う経済的状況に焦点化し、家族が経済支援に示す満足感とその関連要因を探求している。小児がんは7割以上が治癒する時代となる一方で、子どもの成長発達に伴い晩期合併症への対策や治療の重要性が周知され、小児がんの子どもと家族は長期に渡って経済的課題を抱えることが予測されることから、小児看護においても重要なテーマであり、探求すべき課題である。本研究では、経済支援は公的な医療費助成であり、それに伴い関連因子がデモグラフィクスを中心とした限局された範囲での探求に留まっているものの、小児がん家族の経済的状況への看護実践を検討するための基礎的研究の1つとなり得ると考えられる。また、主要な視点が経済支援への満足感ではあるものの、小児がん家族の経済的負担についても言及していることから論旨の揺らぎが懸念されるも、このことは研究者が今後、小児がんの家族が経験する経済的困難や負担感と、それらの生活や健康への影響等、多角的な視点から看護の専門性を強化し、看護実践へのさらなる応用につながる研究の発展が期待できると考えられる。今後は研究者として、段階的に研究をすすめて行くために必要な研究枠組みや分析方法等の研究方法論に対する更なる専門的で高度な研鑽と、本研究の結果を小児がんの子どもと家族の経済的状況に対する看護の関与を具体化し、実現するための研究に発展させ、看護実践と看護学に寄与することが期待できると考え、最終試験を合格と判断した。